

県民生活・土木交通常任委員会県内行政調査

1 調査日 平成28年7月21日（木）

2 調査の概要

(1) NPO法人瀬田漕艇倶楽部（大津市大萱6-1）

(2) ボート関係者と文化振興に携わる方々との県民参画委員会

（会場：県立琵琶湖漕艇場 大津市玉野浦6-1）

本県においては、2020東京オリンピック・パラリンピックに向けたホストタウンの推進に関連して、大津市や滋賀県の競技関係者と交流実績のあるデンマークのボート競技を切り口とした文化交流の推進を目指されている。

また、ボート競技における実績やコネクションを通じて他競技との交流の展開、文化・教育などの交流拡大を目指すとされている。

NPO法人瀬田漕艇倶楽部は、平成17年の岐阜県長良川で開催された世界ボート選手権大会の際のデンマーク代表チームの事前合宿の受け入れや平成25年から毎年マシローイング大会近畿大会（大津市開催）への海外トップ選手の招致実績があり、ボートの普及活動とともに、地域社会への働きかけや社会貢献活動など、地域のスポーツ文化を創造し発展させるための取り組みをされている。

こうしたことから、同倶楽部のスポーツ交流に関する取り組みや施設の概要等について調査を行った。



また、県立琵琶湖漕艇場において、東京オリンピック・パラリンピックに向けた取り組み等に係る調査の一環として、ホストタウンの取り組みに向けたボート関係者と文化振興に携わる方々との県民参画委員会を実施し、今後の交流を図るためのアイデアや方法、文化に係る魅力発信の方策等について意見交換を行った。



**(3) 江若交通株式会社（公共交通事業者）、大津市地域公共交通活性化協議会
（訪問先：江若交通株式会社堅田営業所 大津市本堅田6-29-18）**

本県においては、今年度に「人口減少を見据えた公共交通のあり方検討協議会」を設置し、将来にわたって持続可能な公共交通のあり方を検討することとなっている。

一方、大津市では、平成20年3月に「大津市地域公共交通活性化協議会」を設置され、市の公共交通の活性化および再生を総合的に推進するための取り組みをされているが、市内には路線バスが運行されていない地域や住民の高齢化等により日常生活の移動が困難な地域も存在している。

こうしたことから、大津市地域公共交通活性化協議会の委員である「江若交通株式会社」を訪問し、地域におけるバス路線の現状、公共交通事業者としての取り組み等について調査するとともに、併せて同協議会事務局の大津市等にも同席いただき、市内の公共交通の課題や協議会の取り組み、志賀地域におけるデマンド乗合タクシー実証運行等についての調査を行った。

